



令和7年2月25日
山形市立南沼原小学校
学校だより 第10号
文責：校長 石澤 友章



来年も よい学校をつくります ～児童会 引継ぎ～

児童会活動は「自分たちのくらしを自分たちで創る」ことを学ぶとても大切なものです。本校の児童会活動をけん引してくれた6年生から、次の最高学年になる5年生へ引継ぎが行われました。あいさつ運動をはじめ、すべての委員会でリーダーとして活躍してくれた6年生。真摯な仕事ぶりはもちろんですが、はらっぱ祭りに代表されるように一人一人がよい学校の雰囲気づくりに大きな役割を果たしてくれたと思っています。6年生の委員長から、ファイルと共に思いを引き継いだ5年生の新委員長の皆さん。一人一人ステージ上で決意を述べる姿をとても頼もしく思いました。活動に悩んだ時は今の6年生の姿を思い浮かべて頑張ってくれることを期待しています。



～ なかよし新聞の取材を受けて

今年度充実した活動を企画してくれたなかよし委員会が、今月5日付で「なかよし新聞」を発行してくれました。その記事の取材で5・6年生が校長室に来てくれた時のことです。記事のインタビューに答えた私は、せっかくなので「どの班もあんなにみんなの仲が深まったのはなぜだと思いますか？」と逆に質問をしました。すると6年生の一人が「一人一人を大事にしたからだと思います」と答えてくれました。私は感心して「一人一人を大事にするってどういうことですか？」と重ねて質問しました。すると今度は別の6年生が「例えば、はらっぱ祭りの準備を進めるときに、一人が意見を言ってくれたからと言って簡単に決めたりしないで、それに対しての全員の意見を聞いたり、時には反対の意見もしっかり聞いて部分的に取り入れたりしました」と極めて明快に堂々と答えてくれたのです。「一人一人を大事にする」とは大切な事ですし、私たち教師もよく口にする言葉です。6年生が、まさにそのような気持ちでまわりに接してくれたことにとても感動しました。たてわり活動の成功と子どもたちの成長を改めて実感したところです。



山形市健康推進学校 表彰 優良校を受賞しました



山形市では、毎年、市内の学校の中で学校保健の向上に貢献した学校を表彰しています。今年度は本校が、「優良校」として表彰されることとなり、先日行われた山形市学校保健大会の席上で賞状と盾をいただきました。これは学校生活における保健指導や体育指導はもちろん、すこやか週間の取り組みなど各ご家庭との連携による成果を認められての受賞であります。何よりも、毎日の子どもたちの生活を支え、認めてくださる保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

「子どもの育ち」を考える ～新入学児童保護者説明会より～

今年も新入学児童保護者説明会の折に、「子どもの育ち」について話をしました。内容は、私自身の子育て中に心のよりどころにした精神科医 明橋大二先生の著書から、大切にしたい言葉や考え方を紹介したものです。ここに、その内容を一部掲載いたします。(明橋大二著：子育てハッピーアドバイスより)

甘えない人が自立するのではなく、甘えていいときにじゅうぶん甘えた人が自立する

「甘え」とは「依存」、「反抗」とは「自立」のこと。この2つを行ったり来たりしながら子どもの心は大きくなります。自立の反対は甘えなので「甘やかさないことが自立」と思われがちですが、自立のもとになるのは意欲です。意欲のもとは、安心感です。安心感はどこから来るかというと、十分な甘えからです。甘えから出た安心感が土台となって、意欲となり自立に向かうのです。



つまり、甘えない人が早く自立するのではなく、甘えていいときに、十分に甘えた人が自立するのです。逆じゃないかと思われるかもしれませんが、自立につまずく子どもを見ていると、小さいとき、甘えていいときに甘えられなかったということが多いのです。小学生のうちは十分に甘えていい時期です。甘えていいときにしっかり甘えた子が、しっかり自立するのです。

「甘えさせる」と「甘やかす」のちがい

「甘えさせる」と「甘やかす」を区別することが、子育てのキーポイントと言ってもいいくらいです。

「**甘えさせる**」・・・必要なこと。子どものペースを尊重すること。

「**甘やかす**」・・・してはならないこと。過干渉、過保護とも言い、大人の都合で支配すること。

「甘えさせる」の具体例

- ・「お母さん、聞いて。あのね」と膝の上に乗ってくるなどの情緒的な要求（スキンシップなど）を受け入れること。
- ・子どもがどうしても自分でできなくて助けを求めてくる、または「お母さん、おなかが痛い」などと、身体的・精神的にどうしても我慢できないことを助けてやること。

「甘やかす」の具体例

- ・「お母さんあれ全部買って」など物質的な要求（金やもの）をそのまま受け入れること。
- ・できることをさせないで、大人が先回りして全部やってしまうこと。

そして、明橋先生が「子育てでこれだけは忘れてはならないこと」と示している言葉がこちらです。

「子どもを自分の持ちもののように思わないこと」

子どもと言っても一人の、人格を持った人間です。このことから、子どもなりの生き方を大切にするという姿勢が生まれてくると思います。子どもをストレスのはけ口にしない。（「あーイライラする！あっちに行って！」とか・・・）子どもの人生を、親の自己実現のために使ったりしない。（「あなたは、立派な医者になるのよ！」とか・・・）

子どもの人生は子どもの人生。親の人生とは別物です。それを踏まえたうえで、お互い、よくよくの縁で、この世にいるのですから、ともに支え合うことができれば、それ以上のことはないと思います。

私自身、わが子が成長するにつれ、これらの言葉に励まされ納得のいくことが増えました。特に、思春期を迎えたころに読み返し、気持ちが救われたことを覚えています。子が自分の意志で生きようとしているなら何よりだし、究極的には「元気で生きてさえいてくれたら、それでいい」と思っています。